

要旨

シネクドキでは、山泉 (2004) によると、上位カテゴリー名が下位カテゴリー名を表したり、下位カテゴリー名が上位カテゴリー名を表したりする。本発表ではこれらの表現をメタファー表現の一種とみなし、名詞の内包と外延に着目してその解釈プロセスを提示する。特に、本発表では、関連性理論における演繹的推論 (Sperber and Wilson (1986/95)) とアドホック概念構築 (Carston (2002)) の観点から、シネクドキが意味の転用の方向性に関わらず、共通の解釈プロセスで解釈されることを主張する。そして、上位カテゴリー名が下位カテゴリー名を表す際には、具体的な文脈との関わりで事物の外延に関する情報が想起され、狭められたアドホック概念が構築されることを示す。一方、下位カテゴリー名が上位カテゴリー名を表す際には、事物の内包に関する情報が想起され、緩められたアドホック概念が構築されることを示す。

1. はじめに

シネクドキでは、山泉 (2004) によると、上位カテゴリー名が下位カテゴリー名を表したり、下位カテゴリー名が上位カテゴリー名を表したりする。

- (1) a. (「太郎がたずねて来た」というかわりに) 生物がたずねて来た。 (山泉 (2004: 280))
 b. Roland のギター系エフェクトブランドとして、あまりにも有名な BOSS のサイトです。ギター
 (→エレキギター) やってる人なら一度はこのエフェクター使ったことあると思われます。
 (山泉(2004: 280))
 c. Hussein is a *Hitler*. (山泉(2004: 281))
 d. 人はパンのみによって生きるにあらず。 (山泉(2004: 281))

(1a, b)では上位カテゴリー名が下位カテゴリー名を表し、(1c, d)では下位カテゴリー名が上位カテゴリー名を表す。(1a)では、カテゴリー名が個体に対して用いられ、(1b)では、上位カテゴリー名が下位カテゴリー名に対して用いられる。(1c)では、個体の名前がカテゴリー名として用いられ、(1d)では下位カテゴリー名が上位カテゴリー名に対して用いられる。本発表では、関連性理論における演繹的推論 (Sperber and Wilson (1986/95)) とアドホック概念構築 (Carston (2002)) の観点から、意味の転用の方向性に関わらず、シネクドキがアドホック概念の構築という共通の解釈プロセスで解釈されることを主張する。特に緩められたアドホック概念が意味の一般化の際に構築され、狭められたアドホック概念が意味の特殊化の際に構築されることを踏まえてこのような意味の転用について論じる。

2. 先行研究

2.1 山梨 (1988)

日本語のシネクドキで「花」がサクラを指したり、「小町」が美人を指したりするが、この場合、集合の大小の関係からみて、類は上位概念であり、種は下位概念であり、両者に包含関係がみられ、概念的に部分と全体の関係が存在するため、シネクドキはメトニミーの一種である。(山梨 (1988: 106-111))

・問題点

(2a-e)で、シネクドキとメタファー表現との間の意味的、形式的な平行性を説明できない。

(2) a. I had just wondered what was approaching, but as it turned out, the creature was Taro.

b. In the context of rock music, a guitar is an electric guitar.

c. In Iraq, Hitler is Hussein.

d. In the context of the Bible, bread is various foods such as rice and vegetables.

e. In this novel, fire is anger in his heart.

Cf. ?In this library, Shakespeare is a book.

もしシネクドキをメトニミーの一種だと考えると、これらの例でイコールの関係が成立することや、このような関係の成立が is を用いて述べられることを説明できない。

2.2 佐藤 (1992, 1996)

メタファー表現は一種のシネクドキとみなされる。例えば、「白雪姫」という表現では、色白の女の子から白いものへシネクドキによる一般化が行われ、さらに、白いものから白雪へシネクドキによる特殊化が行われる。このようにして、「白雪姫」という表現が、色白の女の子を指すものとして理解される(佐藤 (1992: 194-204))。また、このようにシネクドキでは語の意味は文脈に応じて広がったり狭まったりするため、シネクドキに意味の弾性がみられる(佐藤 (1996: 248-297))。

・問題点

(3)のように、メタファー表現であっても、ある事物の特性をそのまま別の事物に当てはめることで意味解釈ができる場合があって、そのことを説明できない。

(3) This room is a pigsty.

(Sperber and Wilson (1986/95: 236))

この例では、豚小屋は汚くて散らかっているという情報を部屋に当てはめると、部屋も豚小屋と同様に汚くて散らかっているということが理解される。もし、佐藤の主張に従うと、いったん豚小屋から汚くて散らかっている場所全般へとシネクドキによる一般化が行われ、その後、汚くて散らかっている場所全般からある特定の部屋へとシネクドキによる特殊化が行われることになる。したがって、シネクドキとメタファー表現に(2a-e)のように意味的、形式的な平行性がみられるにも関わらず、メタファー表現だけ特殊な解釈プロセスが関わると考えなければならない。

2.3 谷口 (2003)

谷口 (2003: 124-126) によると、シネクドキはメトニミーの一種である。なぜなら、シネクドキには類と種の関係があり、類と種の関係は全体と部分という関係でも捉えられるからである。さらに、メトニミーに関わる部分と全体の関係と、シネクドキに関わる類と種の関係は境界がはっきりしないからである。部分と全体の関係は実体として捉えられ、類と種の関係は概念的な範疇として捉えられるが、「シェイクスピアを読んだ」というメトニミーでは、著者と著作物という関係は実体として捉えられるのか概念として捉えられるのかははっきりしないためである。なぜなら、私たちはシェイクスピアを実在の人物として把握しているのではなく、知識でどう人物であるのか把握しているためである。

さらに、分類的なカテゴリーの概念自体が「容器」のメタファーに基づく。「類」は容器、「種」は容器の「内容」と捉えられ、「類」と「種」の間に全体・部分の内包関係が認識される。そのため、「容器と内容」というメトニミーとそのメタファーである「類と種」の間に連続性が見いだされる。したがって部分・全体関係の中に類と種の関係が含まれ、部分・全体関係も近接関係の一種と捉えられるため、シネクドキはメトニミーの下位類と捉えられる（谷口 2003 125-126）。

・問題点

この研究も山梨（1988）と同様にシネクドキをメトニミーに基づくものであると主張しており、(2a-e)に挙げた、シネクドキとメタファー表現との間の意味的平行性や形式的平行性を説明できない。

2.4 山泉 (2017)

シネクドキでは、ある語の使用を積み重ねていくことで、スキーマが抽出され、(4)のように、種を本来指す語が類を指すようになる。

(4) A 女史は日本のヒラリーである。 (山泉 (2017: 56))

(4)における「ヒラリー」は本来、アメリカの大統領夫人であるヒラリー・クリントンを指すが、この語の使用の積み重ねにより、トップを目指す女性政治家というスキーマが抽出されて、この語が他の女性政治家に対して広く用いられる。

・問題点

ある語の使用によりスキーマが抽出されると考えることで、種を本来表す語が類に対して用いられるようになることは説明可能だが、シネクドキでは反対に(1a, b)のように、類を本来表す語が種に対して、より狭められた意味で使われることもあり、そのことを説明できない。

・本発表の目的

本発表では、シネクドキをメタファー表現の一種と捉え、両者の解釈プロセスが共通することを示す。さらに、シネクドキにおける意味変化の方向性は、意味の一般化と意味の特殊化の 2 方向になるため、スキーマ化だけが行われるのではなく、語の意味を狭めるプロセスも関わることを示す。さらに、アドホック概念構築 (Carston 2002) という語の意味の一般化にも特殊化にも適用可能な解釈プロセスが関わりと考えることで、意味の特殊化にも意味の一般化にも共通の解釈プロセスが関わることを示す。

3. 理論的前提：関連性理論

・関連性理論における発話解釈

処理労力が少ない解釈の仕方、同音異義語の意味を一義化したり、指示対象を決めたり、省略された要素を補ったりして表意、すなわち言語化された事柄の内容を把握し、そのうえ推意、すなわち言外の意味を解釈して行われるものである (Wilson and Sperber (2002: 262-264))。

・文脈含意

文脈含意は言外の意味の解釈に関わり、表意や文脈想定を基に演繹的に推論して得られる (Sperber and Wilson (1986/1995: 103-108))。

・文脈含意を引き出すプロセスの例

(5) Caroline is our princess.

(Carston (2002: 347))

Caroline is our princess (表意・前提)

A princess is a spoiled and indulged person. (文脈想定・前提)

Caroline is a spoiled and indulged person (推意・結論)

・アドホック概念構築

ある語が表意で指す概念が文脈に応じて字義通りの概念よりも広げられたり狭められたりすること。また、そのためにある語が本来指す概念と近似する概念や異なる概念を指したり、本来指す概念よりも限られた概念を指したりすることがある (Carston (2002: 321-334))。

例えば、(5)では、推意の内容に応じて PRINCESS*という、溺愛されて甘やかされている王女や溺愛されて甘やかされている王女以外の人に当てはまる緩められたアドホック概念が構築される。

さらに、狭められたアドホック概念が構築されることもある。

(6) I want to meet some *bachelors*.

(Carston (2002: 324))

この例では、*bachelors* の意味が狭められて、未婚の男性全般という意味ではなく、結婚相手として望ましい未婚男性という意味に狭められる (Carston (2002: 324))。したがって、この例では、*bachelors* の意味は、宗教上の理由で結婚してはいけない男性聖職者を指さないものとして理解される。

・相互調整 (mutual adjustment)

推意の内容に応じて個々の文脈との関わりでアドホック概念を構築して表意の内容も理解すること (Carston (2002: 347))。

4. シネクドキにおけるメタファー表現としての特徴

シネクドキには次のように、メタファー表現としての特徴がみられる。

(7) a. He wants to be {the second Hitler/a Hitler} in this world.

(BYU COCA (一部改変))

b. Saddam Hussein is like Hitler.

(*Truth Has a Power of Its Own: Conversations About A People's History*)

c. In Iraq, Hitler is Hussein.

(7a)では、シネクドキとして上位カテゴリーを述べるのに用いられる a Hitler は、特定の個人を指す the second Hitler と交替可能であり、どちらの表現もある大きなカテゴリーを述べるためというよりもむしろ、ヒトラーと共通する特徴を持った個人を指すものとして解釈できる。一方、フセインとヒトラーが独裁者であることを述べた(1c)の表現は、不定冠詞 a を用いずに固有名詞により Saddam Hussein を述べたり、類似性を述べるのに like を用いたりした(7b)と同じ事柄を述べることができる。さらに、(7c)のように、Hussein と Hitler の語順を入れ替えても同じ事柄を述べられる。そのために、シネクドキとみなされる(1c)もメタファー表現と捉えられる。したがって、(1c)や(7a, c)では Hitler は字義通りの意味よりも広い意味を持ち、一種のメタファー表現により様々な独裁者を指すものとして理解可能である。

さらに、森 (2011: 144) が指摘するように、上位カテゴリーを指す表現であっても、時代や場所を表す表現により別の認知領域に属する人や物を指す場合、シネクドキはメタファー表現の一種と捉えられる。

(8) 日本のヒラリー/平成の漱石 (森 (2011: 144))

(9) a. “*An American Hitler* might be in the making who would purge the leftists.” (BYU COCA)

b. No, we stopped Saddam Hussein, *the modern Hitler*, according to George Bush.

(BYU COCA)

(8a)でヒラリーという語がトップを目指す日本の女性政治家を指したり、(8b)で漱石という語が平成の文豪を指したり、(9a)で *an American Hitler* が左派の人々を追放するアメリカ人を指したり、(9b)で、*the modern Hitler* が湾岸戦争以降の時代の独裁者を指したりしていることから、シネクドキをメタファー表現の一種と捉えられる。

5. 分析

・下位カテゴリー名が上位カテゴリー名を表すシネクドキの解釈

(10) Quick improvement in the economic situation is unlikely and, in any case, man does not live by *bread* alone. People need spiritual beliefs, myths and symbols. (BYU COCA)

・推論プロセス

人はパンだけで生きるのではない (表意・前提)

パンは食べ物である (文脈想定・前提) ⇨ bread という語から常に想起可能で一般性の高い内包

人は食べ物だけで生きるのではない (推意・結論)

表意で、**BREAD***という食べ物全般に当てはまる緩められたアドホック概念を構築してこの語の意味が理解される。

・個体名がカテゴリー名を表すシネクドキの解釈

(11) North points out, is simply punitive: Saddam Hussein is *a Hitler*, and the solution is to get rid of him. (BYU COCA)

・推論プロセス

サダムフセインはヒトラーである (表意・前提)

ヒトラーは独裁者である (文脈想定・前提) ⇨ ヒトラー個人の属性として固有名詞から常に想起可能で一般性の高い内包

サダムフセインは独裁者である (推意・結論)

表意で、**HITLER***という独裁者全般に当てはまる緩められたアドホック概念を構築してこの語の意味が理解される。

※名詞の指示対象からその名詞の内包として有する特性を想起して、その特性を別の人や物に当てはめて意味理解を行うため、メタファー表現の意味解釈と同じ解釈プロセスが関わる。

- ・ Cf. メタファー表現として使われる名詞の解釈

(12) With these words Anna fanned the *fire* in her sister's heart.

(BYU COCA)

- ・ 推論プロセス

アンは姉の心の中の炎をあおった (表意・前提)

炎は激しい物である (文脈想定・前提) ⇨ **fire** という語から常に想起可能で一般的な内包

アンは姉の心の中の激しい感情をあおった (推意・結論)

表意で、**FIRE***という激しい感情に当てはまる緩められたアドホック概念を構築してこの語の意味が理解される。

シネクドキでもメタファー表現でも、ある語から想起される一般的な内包が意味理解に関わり、ある語の指示対象が有する内在的特性に基づいて名詞が本来よりも広い意味を持つものとして解釈される。また、指示対象に内在する特性に関わるのでメトニミーとは異なる解釈の仕方で行われる。

- ・ 上位カテゴリー名が下位カテゴリー名に対して用いられるシネクドキの解釈

(13) He used to play *guitar* and wear outlandish costumes in a punk band.

(BYU BNC)

- ・ 推論プロセス

彼はかつてギターを弾いた (表意・前提)

ギターはエレキギターである (文脈想定・前提) ⇨ パンクロックに関する文脈から想起可能な **guitar** という単語の外延

彼はかつてエレキギターを弾いた (推意・結論)

表意で **GUITAR***というエレキギターのみに当てはまる狭められたアドホック概念を構築してこの語の意味が理解される。

※ただし、**guitar**の外延は常にエレキギターであるとは限らないので、文脈との関わりで想起される外延が意味理解に関わり、外延は様々な内包の集まったものなので名詞の意味が狭められる。

- ・ 上位カテゴリー名が個体名に対して用いられるシネクドキの解釈

(14) 小柄な島田が大声を上げた。

「先生だ！ 先生が来たぞ!」

この一言で、子供たちは全員あわてて机にもどった。この素早さは、全国の小学生共通のものだろう。

河田たちもあわてまくって椅子を持って自分の席にもどろうとした。

でも、他の子どもたちの机やカバンにぶつかったりして、うまくいかない。

そうこうしているうちに、担任のプー先生が扉を開き、現れてしまった。

(『IQ 探偵ムー 17 夢羽、マジシャンになる。<上>』(下線は発表者))

・推論プロセス

先生が来たぞ（表意・前提）

先生は担任のプー先生である（文脈想定・前提） ⇨ プー先生が担任を務めるクラスという文脈から想起可能な先生という単語の外延

担任のプー先生が来たぞ（推意・結論）

表意で先生*という担任のプー先生のみには当てはまる狭められたアドホック概念が構築されてこの語の意味が理解される。

※先生という単語はその学校の先生全般を指すが、発話が行われる場面との関わりで想起される特定の先生が同定されることが意味理解に関わって名詞の意味が狭められる。

6. 結語

シネクドキやメタファー表現で、ある語の元々の指示対象とその語の一般的な内包にイコールの関係が成立して一般性の高い意味が理解されるため、これらの2種類の表現の意味解釈の仕方に共通点がある。一方、特定の文脈である語の外延が想起されると、ある語の元々の指示対象と、特定の文脈におけるその語の外延との間に特定の文脈のみでイコールの関係が成立し、シネクドキの意味は特殊化される。

参考文献

Carston, Robyn (2002) *Thoughts and Utterances: The Pragmatics of Explicit Communication*, Blackwell, Oxford.

森雄一 (2011) 「隠喩と提喩の境界事例について」、『成蹊國文』44, 150-143.

佐藤信夫 (1992) 『レトリック感覚』、講談社、東京。

佐藤信夫 (1996) 『レトリックの意味論：意味の弾性』、講談社、東京。

Sperber, Dan and Deirdre Wilson (1986/95) *Relevance: Communication and Cognition*, Blackwell, Oxford.

谷口一美 (2003) 『認知意味論の新展開—メタファーとメトニミー—』、研究社、東京。

山梨正明 (1988) 『比喩と理解』、東京大学出版会、東京。

山泉実 (2004) 「シネクドキの認知意味論へ向けて—一類によるシネクドキ再考—」、『認知言語学論考』4, 271-312.

山泉実 (2017) 「意味拡張における説明概念としてのシネクドキの役割 とメタファーとの関係」、『日本語・日本文化研究』27, 50-66.

例文出典

BYU BNC (<https://www.english-corpora.org/bnc/>)

BYU COCA (<https://www.english-corpora.org/coca/>)

深沢美潮, 山田 J 太 (2011) 『IQ 探偵ムー 17 夢羽、マジシャンになる。<上>』、ポプラ社、東京。

Zinn, Howard (2019) *Truth Has a Power of Its Own: Conversations About A People's History*, The New Press, New York.